



個室ユニット型施設 推進協ニュース

2022年7月号
(令和4年)
NO. 179

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 171-1
TEL: 045-921-0462 / FAX: 045-921-0472
MAIL: info@suishinkyo.net

- 厚労省との意見交換 <2面>
- 研修トピックス <2面>
- 介護ニュース・ダイジェスト <4面>
- 入会施設の紹介 <4面>
- 介護保険委員会 <2面>
- 施設紹介(つきがわ・埼玉県) <3面>
- 支部だより(静岡) <4面>
- 新理事紹介 <2面>
- 施設紹介(あやめの里・長崎県) <3面>
- スバリ回答!人事・労務のお悩み <4面>

第17回社員総会

2021年度事業報告など可決

入会10年施設を表彰

6月29日、一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会(推進協、赤枝真紀子会長)はオンライン形式で第17回社員総会を開催した。21年度の事業報告及び決算報告など2議案が承認された。続いて、22年度事業計画及び収支予算を報告し、入会10年を迎えた施設を表彰した。

ユニットケアを広く浸透
赤枝会長 22年度事業方針を説明
会長に就任して



2度目の社員総会となる赤枝真紀子会長。昨年度に引き続き、「ユニットケアを社会に広く浸透させる目標に向けて歩みを進める」と決意を表明し、以下の実現に向けて厚労省や政治へ働きかけていくと述べた。

▽特養の入所要件を要介護度1以上に戻す。▽ユニット型施設の整備を厚労省が立てている目標の7割に届くよう介護保険部会で検討するよう要請。▽日中も夜間と同様に2ユニットの一体運用を可能とするための制度変更。▽ユニットリーダー研修の受講者を「1施設に2人以上」配置する経過措置を撤廃し、段階的に受講者を拡充。▽ユニットケア施設管理者研修の受講の義務化。

2議案が承認・新理事2名を選任
【第1号議案】21年度事業報告及び決算報告
社員総会、理事会など、ユニットケア研修事業、各種研修会の開催、関係機関との連携、コロナや入居待機者のアンケート、新規入会施設などが報告され、承認。

【第2号議案】役員人事について
「退任理事」栗野裕治氏、「新任理事」広嶋稔之氏(照陽会・みんなと暮らす町・施設長)、山本高之

氏(一乗谷友愛会・理事長)。

【報告事項】22年度事業計画及び収支予算
▽事業報告 ①役員会・組織運営 ②厚労省実証事業への参画 ③ユニットケア研修事業 ④認知症介護実践研修 ⑤加算に関する研修 ⑥キャリアアップに関する研修など。▽収支予算 「前赤枝会長を偲ぶ会」の開催、7月から再開する実地研修、事務局の事務所移転(※今年度中に新横浜駅前に移転予定)などに係る費用計上について報告。

入会10年 26施設を表彰
入会10年を迎えた26施設を表彰した。代表として横山信也施設長(藤ヶ丘荘)が「地域に貢献したい」という思いで地域密着型を開業して10年、様々な課題はあるが、今後も日々努力していきたい」と挨拶した。

表彰施設は以下のとおり。
▽岩手県(特養)おでんせ本宮▽群馬県(老健)リハビリホーム喜望峰▽神奈川県(特養)サニーヒル横浜、グループホームやすらぎの郷▽長野県(特養)グレイスフル箕輪▽岐阜県(ケアハウス)ラ・ポールぎふ、(老健)グリーンピラ安江、(老健)カワムラコート▽静岡県(特養)一空園、(特養)竜爪園▽愛知県(特養)アルメゾンみづほ、(特養)しょうなあさひが丘▽京都府(特養)えるむ▽大阪府(特養)うぐいすの里▽奈良県(特養)高山ちどり▽島根県(老健)昌寿苑、(特養)やすぎの郷▽岡山県(特養)まごころの里赤磐▽山口県(特養)シンシアゆうわ▽高知県(特養)森の里高知▽福岡県(特養)わかば、(特養)アットホーム諸岡、(地域密着型特養)藤ヶ丘荘▽宮崎県(特養)わかば、(特養)昭寿園サンヒルズ▽沖縄県(特養)那覇偕生園。

ユニットリーダー研修

実地研修の標準化研修を開催

7月からの再開に向け

6月27日、推進協は「実地研修施設 実習生受け入れ標準化研修」をオンラインで開催し、実地研修施設の受入担当者など約40名が参加した。講師は尾島朱美研修室長。ユニットリーダー研修実地研修を7月から順次再開することに合わせて、「実習生受け入れの標準化」を図ることを目的に開催した。



尾島室長は「待機者が多いため、数年にわたり受け入れに

ご協力いただくことになる。実地研修施設に過度な負担とならないよう、アンケートなどを実施しながら調整していきたい」と述べ、実地研修の目的や内容など説明した。また、受け入れ担当者の役割と

心構えとして「①実習生の態度を観察し行動に変化がある場合は、その理由を尋ね悩みがあれば聴き、その原因を探り改善できるように配慮する。②実習生が精神的にも身体的にも自己コントロールが可能となるように励まし支える。そのためにも、仲間・後輩を育てるという意識をもって、温かい心と冷静な視点で対応する。③生活支援技術について指導や助言をする際は、『なぜこの方法で介護するのか』『なぜこの技術を行うのか』『なぜこの言葉かけが必要なのか』など、エビデンスを的確に説明すること」と語った。

最後に、尾島室長は「実地研修施設として実習生を受け入れるには、施設の長をはじめとする組織ぐるみの協力が必須だ。実習生の学びの場であるだけでなく、実地研修施設自身の介護サービスの質向上にもつながる。双方にとって得るものが大きい。実地研修施設は『教育者』としての意識をもって、温かく迎え入れ、適切な指導・助言を行ってほしい」と結んだ。

介護大学校から

商標登録 完了しました

商標登録出願中だった「介護大学校」の名称が6月2日に商標登録(登録第6565590号)されました。今後は更に「介護大学校」のブランド力を高めるため、情報発信と介護大学校の拡大に力を入れていきます。

尾島校長に教わったこと

現在、実務者研修の申請手続きや関連する講習会開催など、介護大学校の業務を、私、佐藤と尾島朱美校長の二人三脚で進めています。実は、尾島校長と私「部下と上司」の関係だけでなく「先生と生徒」の間柄でもあります。今から8年前、当時、尾島校長は関東福祉専門学校教員、私は介護福祉士実務者研修の第1期生でした。仕事と勉強の両立は、厳しいこともありましたが、半年かけて修了証を手に入れました。

スクーリングで「介護ってすばらしい。なんて、やりがいのある仕事なんだ」と最も感動した授業が、尾島校長が担当していた「介護過程の展開」でした。利用者の人生を広げて豊かにできる仕事に感銘を受けました。(株)推進協が進める実務者研修も、受講生が介護という仕事のすばらしさを知り、仕事にやりがいを見つけていることができた研修にしたいと思っています。

一受講生として学び続ける

利用者のその先の人生を広げて豊かにできるか、それとも狭めてしまうか、それは自分の見聞を広め自分の持つ引き出しを増やしていくかどうにかかっていると感じています。研修では司会を務めています、その傍ら、講義中は一受講生となって視聴し、自分の引き出しを少しずつ増やそうと思っています。(介護大学校担当・佐藤理絵)



外国人 介護人材 マッチングイベント開催

お知らせ

(株)推進協は、(一社)推進協と連携して介護施設の人財確保を支援するため、介護職を目指す外国人と介護施設を結びつけるマッチングイベントをZoomで開催する。介護施設であれば誰でも参加可能。第一弾は在留資格特定技能によるネパール人とスリランカ人で、両国にパイプを持つ登録支援機関の合同会社4YOU & BINI合同会社(島田洋代表、リンプ・プラモド共同パートナー)以下、合同会社)が抱える人材。両国には200人ほどの希望者がいる(島田代表)としており、今後、継続的に実施していく予定。

採用までの流れは、マッチングイベント後、施設は採用希望を合同会社にメール送信。合同会社は希望多数の場合は優先順位をつけ高い方から順に面接。決定した段階で面接は終了。合同会社が入国手続きをして、入国。採用決定から就業まで概ね3カ月。登録支援機関は入国後の生活支援も実施。詳細は(株)推進協のホームページにて公開中。

外国人 介護人材 マッチングイベント 開催のお知らせ
今限り 無料 8月25日(木) 14時~16時 オンライン開催
お申し込みは8/1~HP公開のメールで受付

厚労省と意見交換

推進協

6月23日、推進協の赤枝眞紀子会長（兼愛会・理事長）、田伏清副会長（バルツァ事業会・理事長）、広嶋稔之介副会長（みんなと暮らす町・施設長）は厚労省を訪れ、「特養の入所要件を要介護度1以上に変更」などを求めるとともに、生産性向上のための「2ユニット一体運用」案を提案するなどした。それを受けて、須藤明彦高年齢者支援課長は次期改定に向け検討していきたいと答えた。

今回の意見交換は、3月のユニット協議連総会への陳情の際、内容についてより詳しく聞きたいと須藤課長の申し出を受け実現した。高年齢者支援課からは他に日野徹課長補佐、尾川春香主査が出席した。

制度改正は、2024年4月のトリプル改定を待たなければならぬが、今回の意見交換は少なくともその第一歩が記されたといえる。

赤枝会長「2ユニット一体運用」を提案
新設の個室ユニットでは定員が「おおむね15人以下」に緩和された。既設の個室ユニットは定員が10人以下で設計されているため、同様の方法で生産性向上を図ることは難しい。昼間も夜間と同様に2ユニット一体運用ならば、生産性向上を図るだけでなく、課題（職員が1人になる時間が多くOJTが十分にできないなど）を解決できると考えている。現行の各ユニットに配置されている日勤2人のうちの1人を人材育成専任者とし、OJTを充実させることで新人も育てやすくなり、所属するユニットの入居者に寄り添った個別ケアの質向上につながる。一体

赤枝会長「入所要件緩和」を要望
要介護度が高くなってからの入所だと、重度化が進んでいるため、残念ながら短期間で亡くなるか入院して退所となるケースが多い。要介護度1からの入所であれば、退所までの期間が長くなる。その間にユニットでコミュニケーションも出来、助け合いが行われ、施設での暮らしが充実したものとなる。入所の必要性がある人がいるのに、特養だけ入所を制限しているのは、見直しをお願いしたい。

広嶋 有効待機者数の中には、本来、医療的ケアが必須で特養への入所が難しい方も含まれている。認知症で要介護度1、2の場合、体は元気で動けるけれど在宅での暮らしには課題を抱えているケースが多い。しかし、特養に入れない現状だ。

須藤課長 現行の制度を急に変えることは難しいが、調査して地域の状況など見ながら分析し、特例入所の弾力化について検討したい。

田伏副会長「派遣事業者」実情訴え
就労祝い金目当てですぐに転職する人を紹介できないので、3日就労しただけで紹介手数料（一人につき約90万円）の50%、1カ月就労すれば

100%支払わなければならない。紹介手数料を6カ月間くらいで勾配をつけるようにしてもらえないか。

広嶋 介護業界での人件費率は6、7割を占める。求職者と施設のマッチングが重要。正規雇用前にトライアル雇用ができる助成制度があると良い。

須藤課長 派遣事業者の問題は、介護業界だけでなく建設業界も同様。派遣事業者の透明性を上げていく必要がある。労働局にも実情を伝えていくべきと考える。

田伏副会長「週20時間労働者に社会保険適用」選択制を
週20時間以上の労働者に社会保険を適用することは安心感につながる面もあるが、その一方で社会保険を払わなくて済むように週18時間の勤務を望む従業員もいる。さらに人材不足が加速する。選択制にできないか。



第1回介護保険委員会

現状分析と今後の対応を論議 ソーシャルメディアでの発信を検討

7月1日、推進協は第1回介護保険委員会を開き、現状の課題や今後の対応の方向性などについて話し合った。

また、個室ユニット型施設を紹介する動画などソーシャルメディアを活用して、利用者やユニット型施設の良さをPRする必要があり、という意見が上がり、詳細を検討することが決まった。

出席者は藤村二朗介護保険委員長、若月剛治委員、広嶋稔之委員、西慶二郎委員、上田かな委員、大塚小百合委員の6名。

●次期改定に向け課題を整理・検討
現状の課題として、介護報酬に含まれている医師の報酬について、「在宅診療より報酬が低いこともあり、特養の配置医師の成り手がいない。報酬の整理が必要だ」最低賃金の上昇について、「アップするたびに給与体系がいびつになり、事務は煩雑になる一方」などの意見が出た。

次期介護報酬改定に向け、さらに課題の整理検討を進めることとなった。

●ソーシャルメディアでPR
大塚委員は「特養は1、2年待たないと入所できないという世間のイメージが定着しているのではないかと。実際に入所できるケースもある。ユニット型施設の良さや他の高齢者施設との違いなどをPRしていくことが必要」と述べ、大塚委員自身が作成している「特養と有料の違い」などの動画「ゆるっと介護」をYouTubeで配信し、既に5万回以上再生されていることを紹介した。

委員からは「推進協でもユニット型特養のPR動画を作るとよいのではないかと賛同する意見があがった。今後、介護保険委員会で詳細について議論を深め、理事会に上程することが決まった。

新理事紹介

広嶋稔之氏（照陽会・みんなと暮らす町施設長）
2019年に神奈川県支部長としてパシフィック横浜で開催した全国大会の実行委員長を務めた。今後は理事として全国でしっかりと意見していけるように、また、少しでも会員施設の皆さんが働きやすい環境となるよう努力していきたい。



山本高之氏（一乗谷友愛会・理事長）
これまで、総務企画広報委員会の委員として約10年携わってきた。今後は理事として、慢性的な人員不足の状況で生産性を上げていくことが求められる中、いかに個室ユニットの存在意義を打ち出していか、自分なりに考え努力していきたい。



研修トピックス

今月からこのコーナーを担当する研修室長の尾島朱美です。問題提起や情報発信・共有の場にしていきます。

尾島の視点 職員は「人的環境」因子
環境は社会的・物的・人的の3つに区分され、どれも私たちの生活に影響を与えているといわれています。その一つである「人的環境」について、私の体験談を紹介いたします。

1996年、私は老健に介護職員として入職しました。当時、介護経験も、資格もない私にとつて、施設という環境の中で繰り広げられることすべてが初めての経験でした。特に「※痴呆棟」（注※当時の名称）と呼ばれる施設された環境の中で生活する高齢者に接することは、私にとつては、まさに「未知の世界」でした。

ある時、重度認知症の利用者からコールがあり、ある職員がすぐに部屋を訪ねると、その利用者は「あなたはマル」と笑顔で言いながら頭の上に大きく〇を描いたそうです。それから間もなくして、また、同じ利用者からコールがあり、別の職員が訪ねたところ、今度は「あなたはバツ」と厳しい表情で頭の上にXを描いたそうです。この時、私は利用者は私たち職員を「良く観ている」ということに気づかされると同時に、重度の認知症の方でも「感性」は保たれていることを学びました。職員は人的環境の「促進因子」として、利用者の日常生活に関わっていきたくないと強く心に決めた出来事でした。

今月の注目研修 環境改善を学ぶ
今年度から環境（設え）の改善を学ぶための「ケア環境支援コーディネーター（CEC）基礎養成研修」を開始しました。環境の持つ力を学ぶ良い機会です。現在、第2期の申込受付中です。多くの方のご参加をお待ちしています。

募集期間：7月1日（金）～8月15日（月）



埼玉県 社会福祉法人 太陽の会

特別養護老人ホームつきがわ

～ 職員と共に成長し、地域と共に発展したい～



【施設の紹介】

2019年4月、「つきがわ」は埼玉県内で唯一の村である「東秩父村」に混合型施設として開設した。東武東上線・小川町駅からバスで25分、山あいの自然豊かな場所にある。東秩父村は1300年もの間、隣接する小川町と共に「手すき和紙」の伝統を守り続けている村だ。



【コロナ禍でのお祭り】

手指消毒と換気を徹底して、フロアごとに納涼祭を昨年8月に開催した。人混みへの外出が難しい中、施設内でのイベントに利用者も大満足の様子。



【三善英史リサイタル】

コロナ禍でも楽しみを届けたいと昨年11月に、歌手の三善英史さんを招いてリサイタルを開催した。感染症対策として観客を少数に抑えたため、三善さんは1日に5回、各フロアを



回り歌声を披露。緊急事態宣言解除後初のイベントと

いうこともあり、入居者や職員のほか、地域の方々を含む約150人に三善さんの生歌を楽しんでもらうことができた。中には懐かしんで涙を流したり、「紅白出場の歌手に会えて最高」と喜んだりする入居者の様子も見られた。

人々の命を守るための座学と実技を学んだ。実技では、応急手当の他、タオルケットを活用したガウンでの保温方法、ホットタオルの作り方、ご飯をポリ袋で作る方法などについても学んだ。

5月、東秩父では有名なギターリスを招き、坂本九さんの曲やオリジナル曲を演奏してもらった。ユニットに響きわたる生ギターの音色に心地よく身体をゆらしながら聞き入る入居者も。

地域のボランティアの協力でパーパーフラワーアレンジメントクラブを開催している。最初は「上手にできるかしら」「あまり得意でないのよ」と不安そうな様子でチャレンジした入居者だったが、完成品を手に「素敵にできあがった」「本物のお花みたい」と喜ぶ声が聞かれた。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。



ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

ことし4月、普通救命講習Ⅱの講習会を開催した。比企広域消防本部東秩父分署の指導の下、15名の職員が参加。胸骨圧迫、AEDの使い方など、人形を使って実習した。この様な訓練を繰り返し行うことで、急変などの事態に速やかに対応し、入居者の安心安全な暮らしを守れることを目指している。

〒355-0372 埼玉県秩父郡東秩父村坂本1308-8 TEL 0493-81-2424 URL : <https://taiyounokai.or.jp/>
【特養】ユニット型 定員60人(6ユニット)・従来型 定員40人【ショートステイ】定員10人(1ユニット)

長崎県 社会福祉法人 佐々川福祉会

特別養護老人ホームあやめの里

～ 笑顔を導ける環境づくりと空気感の演出を～



【施設の紹介】

2015年5月、佐々川福祉会は、長崎県北部に位置する北松浦郡佐々町(さざちよう)に、法人初のユニット型施設「あやめの里」を開設した。

施設の介護理念である《介護の三K》「感謝・可能性・心配り」を浸透させ、利用者の気持ちに寄り添い、利用者の望む生活を支援できることを目指している。

梅干しと干し柿 毎年、田植えのシーズンが始まる6月初旬には梅干づくり、12月にはお正月に備えて干柿づくりを行っている。梅も柿も福田施設長の畑で収穫したもの。かつて、地方ではどの家庭でもやっていたであろうことを、当時を思い起こしてもらえるのではないかと考えてのことだ。

昔取った杵柄 干し柿づくりでは、認知症が進行している入居者が包丁を持って大丈夫だろうかかと職員が心配して見守っていると、見事な手さばきで柿を剥いていく。

新米でユニット炊飯 施設長の家の棚田で収穫した、新米をユニットで炊いてもらい、季節を味わってもらっている。



【アットホームなイベント】 以前は、秋祭りを地域の方と一緒に一大イベントとして実施していたが、コロナで開催できなくなった。そこで、2年前、職員が自主的に秋祭り実行委員会を立ち上げ、職員と入居者だけのアットホームな秋祭りを開催した。アクティビティ委員会の職員が集まって、フロアや4つのユニットをどのように使うかなど、計画し実施した。まさに「ステイアットホーム」な取り組み。

【福祉用具・ICTの導入】 人材確保等支援助成金を利用し、2020年に走行式リフト「カーリナ」を導入した。それまでは2人で移乗介助をしていたが、職員より体が大きい方でも職員1人で楽に移乗できるようになった。



【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

ト導入支援事業による非接触・非拘束型生体センサーマット「ams11台の助成が決定した。10月頃から導入予定。ベッドの下にマットを差し込むだけで、ベッド上の入居者の心拍・呼吸・体動・離着床・睡眠などの状態をリアルタイムにモニターできる。看取りの方を中心に利用を考えている。また、介護保険ソフトのケア記録とも連動することで、業務効率化が図れることを期待している。



【福田省吾施設長から】

毎朝お一人お一人と挨拶を交わしていると、たまに寂しい表情を浮かべておられる姿に出逢うことがあります。何とお声掛けしてよいか、自分の無力さに気付く瞬間です。アメリカの哲学者ウィリアム・ジェームズは「楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しいのだ」と言っています。ということ「やる気が出たからやるのではなく、やるからやる気が出る」と言い換えることもできそうです。

コロナ禍で家族や友人と逢いたくても逢えない状況下でも、笑顔を導ける環境をつくり、その気にさせる空気感を演出するのが私たち施設職員の役割だと思います。今こそ『個別ケア』に充分時間をかけていくことが重要と考えています。

【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

【取材後記】 自ら育てた梅や柿、新米などで少しでも季節を感じてほしいという福田施設長。さりげない優しさが伝わってきます。

〒857-0337 長崎県北松浦郡佐々町八口免805番地3 TEL 0956-41-1213 URL : <http://www.sazagawa.com/ayame/index.html>
【特養】定員30人(3ユニット) 【ショート】定員10人(1ユニット)

介護「ユース・ダイジェスト

5月25日(土)
6月25日(土)

■特定施設人員配置基準の柔軟化を提言(5月27日)

政府の規制改革推進会議はICT活用等先進的な特定施設において、現行の人員配置基準より少ない人員配置であっても、介護の質が確保され、かつ、介護職員の負担が軽減されるかに関する検証を行うことを提言。特例的な柔軟化の可否検討の前提となるもの。

■介護サービス事業所、常駐・専任規制の見直し(6月3日)

政府のデジタル臨時行政調査会はアナログ的な規制を見直すとして、介護サービス事業所の管理者の常駐を例に挙げた。見直しの方向として、間接的業務のテレワークの導入や直接的業務の実証、審議会での検討等を示した。

■新しい資本主義の起動を提言 骨太の方針閣議決定(6月7日)

「新しい資本主義のブランドデザイン」も閣議決定した。これには賃上げの推進として、介護・障害福祉職員、保育士等の処遇改善としてこれらの公的価格の更なる見直しにも言及。適正な水準まで収入が上がり、必要な人材が確保されるか、という観点から公的価格の更なる見直しを検討するとして。

■介護経営概況調査実施(6月8日)

厚労省が調査票を配布。サービス提供の状況、居室・設備等の状況、職員配置、職員給与、収入の状況、支出の状況等を調査し、前回と同様の12月に結果を公表。

■推進協 令和4年度第1回理事會を開催(6月9日)

前年度決算、推進協事務所移転、赤枝雄一前会長を偲ぶ会開催等のため令和4年度予算の変更等を承認。

■推進協 故赤枝雄一前会長を偲ぶ会開催(6月10日)

偲ぶ会には300名が参列し

た。来賓は、鳩山元総理夫妻、黒岩祐治神奈川県知事ら。プロスキーターを寄せた。

■推進協 ケア環境支援コーディネーター(CEC)研修開催(6月20日)

ケアと環境研究会との共同事業。ユニットケアの特長である設えの改善を学ぶ。PEAPとキャプション評価法を駆使し、常に環境改善するユニットリーダーの育成を目指す。

■介護職の処遇改善加算で新通知(6月21日)

介護報酬の処遇改善加算を巡り、厚労省は新たな通知を発売した。10月から適用。三段重ねとなっている処遇改善加算を一体的に説明する内容。

■高齢者施設フロン4回目接種の徹底を通知(6月23日)

高齢者施設等におけるクラスターの発生は依然として続いており、重症化リスクの高い高齢者施設等の入所者等への追加接種は極めて重要とし、3回目接種終了後から5カ月経過後の速やかな接種を求めている。

■推進協 厚労省高齢者支援課長と意見交換(6月22日)

赤枝会長らが出席。2ユニット一体運用の実施の他、3月のユニット協議連合会時要望事項の主要部分について説明。厚労省は8月にユニットケア研修に関する厚労省主催会議の初開催を予定している旨表明。

■推進協 静岡支部が総会・研修會を開催(6月24日)

令和3年度事業報告、令和4年度事業計画を承認。自見はなこ参議院議員のビデオメッセージが紹介された。続けて開催された研修會では、コロナ感染症発生時の対応が事例として紹介された。

支部だより 静岡支部

総会および研修會を開催

6月24日、静岡支部(貫名徹支部長)はオンラインで静岡県個室ユニット型施設連絡会総会および研修會を開催し、27施設43名が参加した。連絡会総会終了後、参議院選挙の自民党の比例区候補の自見はなこ氏が抱負を語るビデオメッセージが流された。

その後、「ユニット型特養新型コロナウイルス発生事例」をテーマに研修會を開催した。講師は、感染対策のコンサルタントである奥健児氏(株式会社オーケーユー・代表取締役)、岳陽会・地域密着型特養あおばの杉山江美施設長・早川純子看護長が務めた。杉山施設長は2月に感染症が発生した際のガウンテクニックやゾーニ

ング、対応方法、隔離解除までの経緯などを説明した。

早川看護長は、居室にトイレがない方には災害時携帯トイレセットを用いたり、消毒の手間を省くために使い捨てタイプのケアシートを活用したりしたことなどを紹介し、「認知症の方の対応が一番難しかった」と述べた。

奥氏は「米国などでは『オミクロン新派生型B.A.2』よりも感染力や病原性が高い変異株に置き換わりつつある。日本はおおよそ半月遅れで起きてくる。これまで同様に基本的な予防対策を続け、これまで以上に注意深く行動してほしい」と警鐘を鳴らすとともに、「感染症リスクマネジメント」の重要性を説いた。

新型コロナウイルス・感染症発症時に 初動対応と環境整備にはどのようなマニュアル・実技研修が必要でしょうか？

感染症発生時ゾーニング設定・緊急対応
初動対応・嘔吐物処理手順
予防着(セット)対応・ガウン着
感染症リスクマネージメント
感染症予防研修会 実技研修会
施設内環境整備 清掃手続実技研修会
清掃用具・清掃機材 ヘルスクリーニング推進

(研修会資料から抜粋)

ズバリ回答！人事・労務のお悩み 短時間労働者の社会保険加入義務化

【今月の相談内容】

パート・アルバイトの社会保険加入が義務化されると聞きました。具体的にはいつからで、今後準備しておくことがあれば教えてください。

【回答】
現在、短時間労働者を被保険者とする適用拡大対象の企業規模は、被保険者数「500名超」ですが、2022年10月1日から「100名超」、2024年10月1日から「50名超」へと段階的に引き下げられます。

適用対象は、現在、社会保険対象となっていない人の数で判定され、被保険者数は以下の①と②の合計人数となります。
①フルタイムの従業員
②週労働時間がフルタイム従業員
の4分の3以上の従業員
入社退社が多くて被保険者数が100名を前後している場合や各月の被保険者数が直近1年の内6カ月



推進協監事・特定
社会保険労務士
栗田淳二

入会施設のご紹介

【神奈川】

(地域密着特養)きみどり
(福) みどり会
理事長 山崎隆史
施設長 山崎則子
厚木市戸室1丁目26-11

【神奈川】

(特養)しよじゅの里相模原
(福) 兼愛会
理事長 赤枝眞紀子
施設長 増田文明
相模原市中央区
すすきの町22-12

【会員施設数】389施設

(令和4年7月8日現在)



事務局から

●情報発信の大切さ

休日出勤で一人で仕事をしていた日のこと、一人暮らしの母親の居先を探している方から電話が、「何か所も見学に行ったらけれど、どこもビジネスライクに扱われるだけ、不安で仕方ない、どこに相談すればよいのか」。これまでに一人で色々な思いを抱えていたのでしょうか。堰を切ったように話し始めました。

知人は、親自身は延命治療を望んでいなかったけれど、誤嚥性肺炎を繰り返すので医師から胃ろうを進められて手術した。母親には安らかに眠るように看取られて亡くなってほしい。誤嚥性肺炎で苦しんで亡くなったり、誰にも気づかれずに亡くなったりしてほしくない。しかし、胃ろうにすることが母親にとって良いことなのか迷っている…と。

私は、推進協の研修で学んだことを伝えました。「誤嚥性肺炎は口腔ケアや食形態の工夫、食事の態勢などで防げることが多いそう。医療の目的は病を治すことで、寿命を延ばすためではない。食べられないからと点滴をすれば、溺れるような苦しさを感ずるそうです。寿命なら少しづつ眠る時間が長くなり食も細くなる。少しづつ木が枯れていくような感じが、本人にとつては楽だと聞いています」

そして、その方がお住まいの県内の実地研修施設の見学をお勧めしました。
その方は迷いが吹っ切れた様子で、「納得できました。ありがとう」と電話を切りました。
必要な人が適切な介護サービスを選択できるよう、高齢者施設の特徴や違いなど、わかりやすく情報発信をしていくことの大切さを感じました。介護保険委員会(※2面参照)で提案されたソーシャルメディアを活用したPRを進める時ではないでしょうか。(山)